

# 健康 コラム

## 全身麻酔中の体温 ～体温の温かみを大切に～



秋田厚生医療センター  
手術室 看護師

工藤 麻美 主任  
あさみ 工藤

『体温』は、身体の状態を知るための情報として、よく使われています。この『体温』は、全身麻酔中でも、重要なのはご存知でしょうか？今回は、人の体温と全身麻酔による変化、また手術前にほんの少し気にかけていただきたいことについてお話したいと思います。

### 人の体温

手足や身体の表面の温度（末梢温といいますが）は、環境の温度に大きく影響を受けて変動します。末梢温は、31～36℃、一方で体の内部（中心部）の体温は、脳や心臓などの重要な臓器の働きを適切に保つために、37℃±0.2℃という狭い範囲で調節されています。これを「中枢温」といいますが、この中枢温は脳の視床下部にある「体温調節中枢」で、一定に調節されています。しかし、全身麻酔の状態では、「体温調節中枢」の働きがほとんどなくなってしまうのです。

### 体温は全身麻酔によって

#### どう変化するのか…

全身麻酔をしていない時、寒さを感じたり体温が低下すると、末梢血管（体の各部に存在する血管）を収縮させて熱を逃げにくくしたり、筋肉を震

わせて熱を産生します。しかし、全身麻酔をすると交感神経（身体のアクセルのように、活発に働く自律神経）がうまく機能しないため末梢血管は収縮せずに、体温が逃げやすくなります。また、麻酔中は筋肉の震えも止まるので、熱を産生する仕組みがなくなってしまうのです。全身麻酔をしている間は、意識がなくなるので、寒さを全く感じません。熱を産生する機能があったとしても、その機能はほとんど働きません。ということは、全身麻酔では「寒さを感じない」「熱が逃げやすくなる」「熱を産生できない」ということとなります。体温調節ができない身体になっているので、全身麻酔の手術中は、身体を温めないで体温はどんどん下がってしまいます。

### 手術中の体温管理について

ひとたび下がってしまった体温を上昇させるのは難しく、「低体温は患者様の身体に負担がかかってしまいます。手術室では、手術前からベッドを温めたり、部屋の温度を調整しています。また、温風式加温装置（布団乾燥機のように温風が出てくる装置）を、専用のブランケットを使って、体の表面に温風を当てています。手術中は、

温めた点滴を使用し、点滴専用の温める装置を使い点滴をしています。手術後に使用するベッドの保温も行っています。手術室スタッフは、手術中に変化しやすい体温を持続的に測定し、手足に触れ温かみを感じ、健康の保護や全身管理に役立てて体温の低下を防ぐよう、保温・加温に努めております。

### 手術前には…

麻酔が始まる前に、体の表面を温めておくことで、体温低下を防ぐことができます。病棟から手術室へお越しになる前には、「手足が冷たくなっていないか」「気にかけてみてください。寒さや手足の冷たさを感じる場合は、掛物を増やしたり、手術着の上から羽織り物をかけていらしてください。これから、寒い日が続きます。電気毛布なども、備えておりますので気軽におっしゃってください。

私たち、病棟・手術室スタッフ一同は、患者様と共に、体温の温かみを大切にしていきたいと思っております。

心配なこと、困っていること、少しでも気がかりなことがありましたら、手術前に訪問した手術室スタッフや、病棟看護師にお申し出ください。

